

上陸6つ、異例づくしの今年の台風、1万8千人の意識を調査
 今年の台風は“変”が9割超、最も感じたのは岩手県98.2%
 ～“防災意識変わった”被害の大きかった北海道では約8割に～

株式会社ウェザーニューズ(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:草開千仁)は、上陸数もコースも異例づくしとなった今年の台風をウェザーニューズ会員と振り返り、「2016年台風調査」を実施、その結果を発表しました。本調査では、10月21日～23日にスマホアプリ「ウェザーニューズタッチ」を通じて、今シーズンの台風に関して6つの質問をし、全国18,022人の方々から回答をいただきました。調査の結果、今年の台風は“変”だと感じた人が9割を超えたことがわかりました。また、事前の台風情報が“足りなかった”との回答が北海道では5割を超えました。今年の台風の影響を受けて“防災意識変わった”との回答は全国平均で5割に達し、特に大きな被害を受けた北海道では約8割にのぼりました。ウェザーニューズでは、台風による被害を最小限とするため、本調査結果を今後のサービスの向上に活用していきます。

2016年台風調査の詳細はこちら

ウェザーニューズウェブサイト「2016年台風調査」
<http://weathernews.jp/s/topics/201610/250085/>

素材のダウンロードは、ウェブ版プレスリリースから
<https://jp.weathernews.com/news/>

✓ポイント

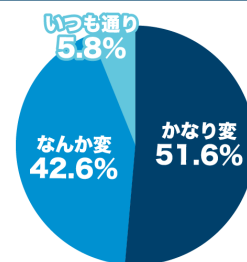
- ① 今年の台風は“変”が9割超、台風が相次ぎ接近・上陸した岩手県(98.2%)、北海道(97.4%)が上位
- ② 出費全国1位は、台風16号の影響を受けた鹿児島県で9,848円
- ③ 台風対策度は、台風銀座の鹿児島県・宮崎県で9割超の一方で、北海道は5割に届かず
- ④ 事前の台風情報“足りなかった”北海道で5割超
- ⑤ 今年、“台風への防災意識変わった”は5割超、北海道では約8割にのぼる!

【1】2016年台風調査

◆今年の台風は“変”が9割超、最も感じたのは岩手県98.2%

「今年の台風はどうでしたか?」と質問したところ、“かなり変”、“なんか変”と回答した合計は全国で94.2%にのぼりました。都道府県別に見ると、1位が岩手県で98.2%、2位が北海道で97.4%と、台風が相次いで接近・上陸し、甚大な被害が発生した両県が100%に迫る勢いで上位となりました。3位の山梨県は、台風が来ても比較的雨も風も強くなりにくい地域ですが、台風16号接近時の24時間雨量(9/19～20の最大値)は甲府で100ミリを超える大雨となったことが起因していると考えられます。4位の沖縄県の台風の接近数は平年並(平年7.4個)の7個で、台風18号接近時に久米島では記録的な暴風となりましたが、沖縄本島には大きな被害をもたらす台風の接近は少なく感じられたこと、また、例年は7月から接近が増え、8月がピークになりますが、今年は9月がピーク(4個)と時期がずれました。9月の4個接近は統計開始以来2位タイの多さで、これから

今年の台風はどうでしたか?



2016年ウェザーニューズ調べ



今年の台風は「変」と思った都道府県ランキング

1位	岩手県	98.2%
2位	北海道	97.4%
3位	山梨県	97.2%
4位	沖縄県	97.1%
5位	徳島県	96.6%

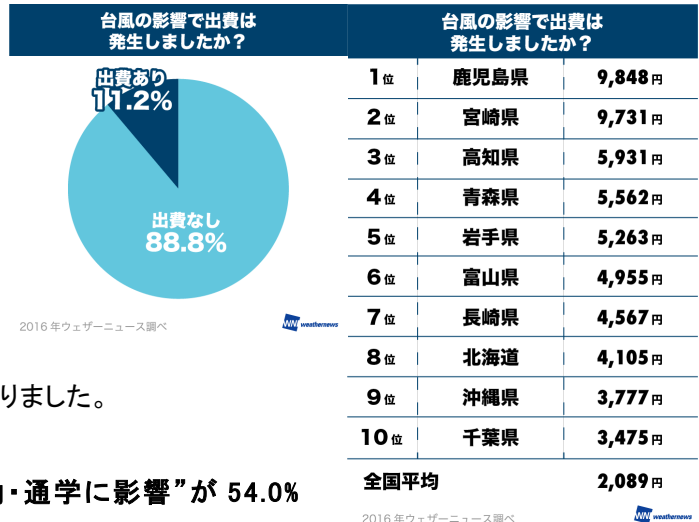
2016年ウェザーニューズ調べ



沖縄県で“変”と感じる割合が多くなった可能性があります。

◆出費全国 1 位は台風 16 号の影響を受けた鹿児島県で 9,848 円

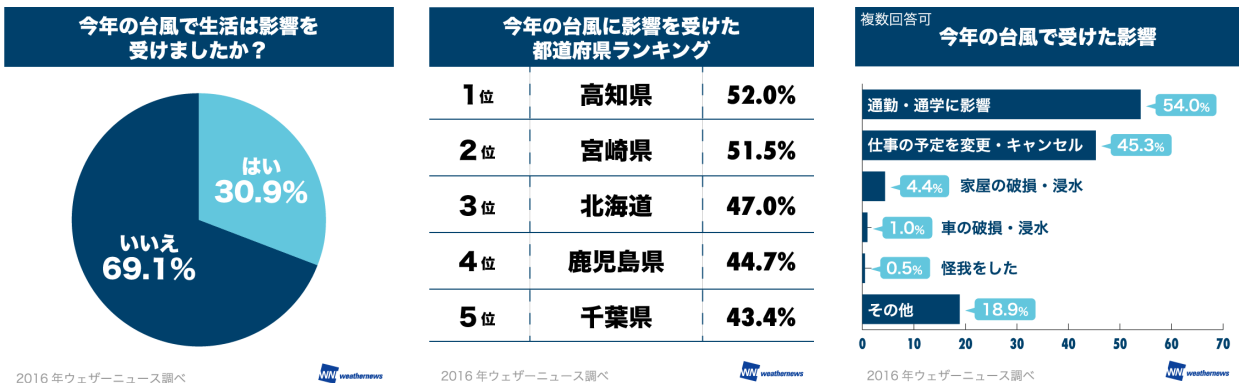
「今年、台風の影響で出費は発生しましたか？」と質問したところ、出費が発生した方は全国で約 1 割でした。出費を都道府県別に見ると、1 位は鹿児島県の 9,848 円、2 位は宮崎県の 9,731 円、3 位は高知県の 5,931 円と台風 16 号の影響を受けた西日本 3 県が続きました。4 位は台風 10 号が通過した青森県で 5,562 円、5 位は台風 10 号で大きな被害を受けた岩手県で 5,263 円、6 位は台風 18 号で強風の影響を受けた富山県で 4,955 円となりました。



◆3 人に 1 人が“台風の影響を受けた”、“通勤・通学に影響”が 54.0%

「今年、台風により生活に何らかの影響を受けましたか？」と質問したところ、全国で 3 割が“はい”と回答し、3 人に 1 人が今年台風の影響を受けたことになりました。都道府県別に見ると、上位 5 位にはいずれも台風が上陸もしくはかなり近くを通過した県が並びました。1 位の高知県・2 位の宮崎県・4 位の鹿児島は台風 16 号、3 位の北海道は台風 6 号・7 号・9 号・10 号・11 号、5 位の千葉県は台風 9 号の影響を受けました。

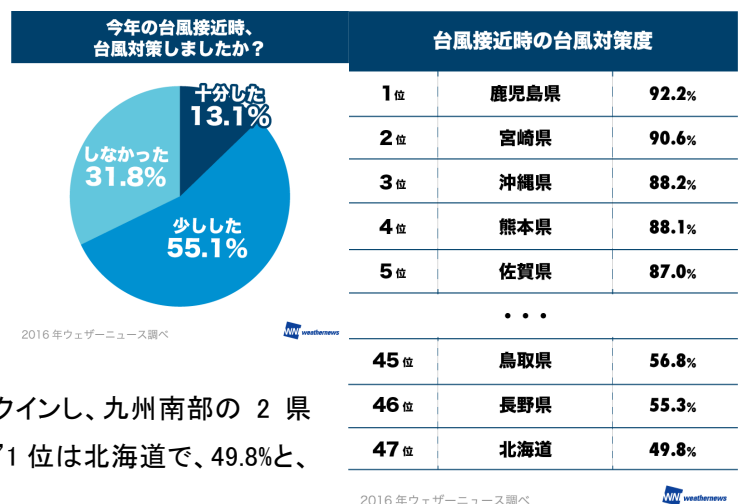
また、具体的にどのような影響を受けたかを質問したところ、“通勤・通学に影響”が全国で 54.0%と 1 番多く、“仕事の予定を変更・キャンセル”が 45.3%と続きました。



◆台風対策度は、鹿児島県・宮崎県で 9 割超の一方で、最下位の北海道は 5 割に届かず

「今年、台風接近時に台風対策はしましたか？」との質問に対し、“必要がなかった(台風が来なかった)”を除いて集計したところ、全国平均では“十分した”は 13.1%、“少しした”は 55.1%、“しなかった”は 31.8%となり、対策を行わなかった方が 3 割以上にのぼりました。

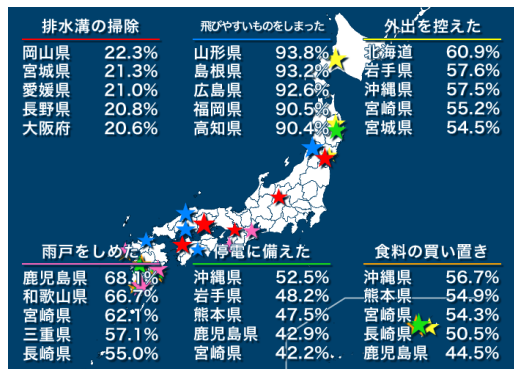
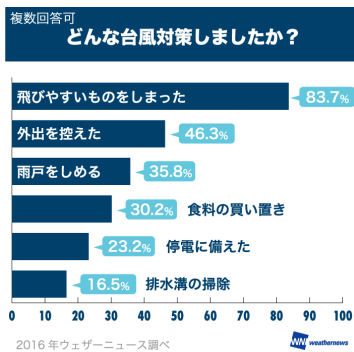
“十分した”と“少しした”を合計したところ、都道府県別に見ると、上位 5 県は例年台風が頻繁に接近・通過する九州・沖縄の各県がランクインし、九州南部の 2 県は 9 割を超えました。一方、対策を“しなかった”1 位は北海道で、49.8%と、



過半数を下回る結果となりました。今年には北海道に相次いで3個の台風が上陸、ここまで連続で台風が直撃したケースはなく、個人の対策で防ぎ切れる範囲を超えた被害が発生してしまいました。

具体的な対策としては、“飛びやすいものをしまった”が全国で1番多く

83.7%を占め、次いで“外出を控えた”が46.3%となりました。都道府県別に見ると、“雨戸をしめる”は鹿児島県・和歌山県・宮崎県・三重県など台風が上陸しやすい西～東日本の太平洋側の県で割合が高く、北日本で低くなりました。“停電に備えた”や“食料の買い置き”といった対策は九州・沖縄の各県で割合が高まり、エリア特性が見られました。

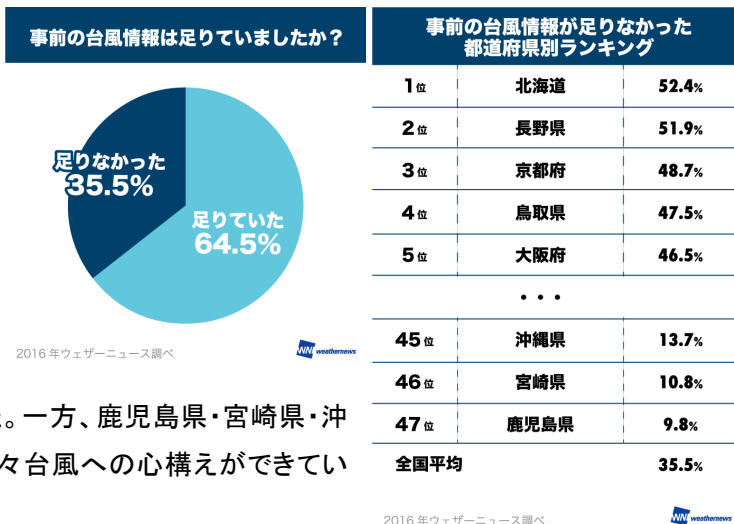


◆事前の台風情報“足りなかった”北海道で5割超

「事前の台風情報は足りていましたか？」との質問に対し、“十分足りていた”と“まずまず足りていた”の合計が全国平均では64.5%、“やや足りなかった”と“足りなかった”の合計は35.5%でした。

都道府県別に見ると、エリアによってばらつきが大きくなりました。“やや足りなかった”と“足りなかった”の合計が全国で1番多かったのは北海道で、52.4%と5割を超える結果となりました。一方、鹿児島県・宮崎県・沖縄県など台風の接近・上陸が常連の県では、元々台風への心構えができてい

るからか、情報が充実していたようです。

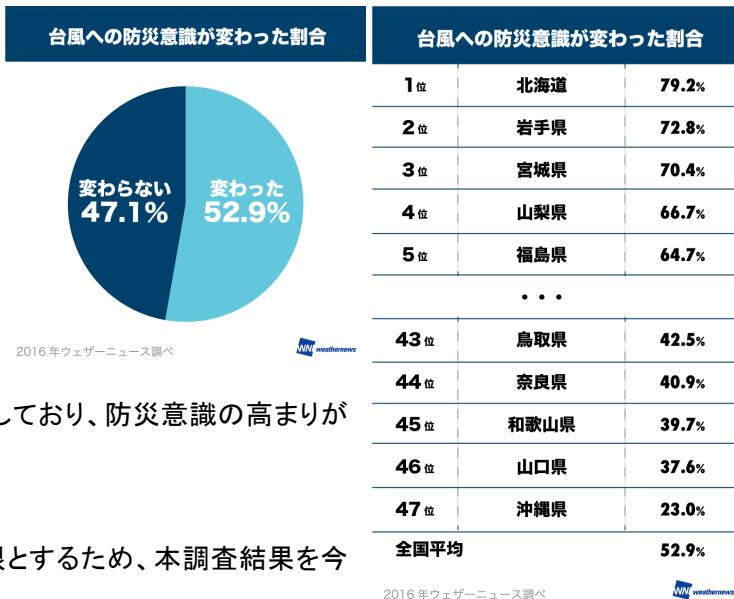


◆今年、“台風への防災意識変わった”は5割超、北海道では約8割にのぼる！

「上陸が多発した今年、台風への防災意識は変わりましたか？」との質問に対し、“変わった”と“少し変わった”の合計が52.9%、“あまり変わらない”は47.1%となりました。

都道府県別に見ると、“事前の情報が足りなかった”割合が全国で1番多かった北海道では、“変わった”と“少し変わった”の合計が79.2%と、全国で1番多く、8割近い結果となりました。このほか今年被害にあった県が上位にランクインしており、防災意識の高まりが読み取れます。

ウェザーニューズは、台風による被害を最小限とするため、本調査結果を今後のサービスの改善に活かしていきます。



【2】2016 年台風の特徴

◆異例の上陸数：2016 年の上陸数は 6 個、統計開始以来 2 位タイの多さ

今年は 1 号の発生が 7 月と非常に遅くなりましたが、7 月以降は遅れを取り戻すかのように立て続けに発生し、10 月までの発生数は 22 個と平年の発生数に並びました。

今年の上陸数は 6 個で、2004 年の 10 個に次いで、1951 年の統計開始以来 2 位タイの多さとなりました。2004 年は 6～10 月にわたり 10 個上陸しましたが、今年の上陸は 8～9 月のみで、2 か月間の上陸数としては統計開始以来最多となります。



		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
台風	2016年							4	7	7	4			22
発生数	平年	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
台風	2016年								4	2				6
上陸数	平年					0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7

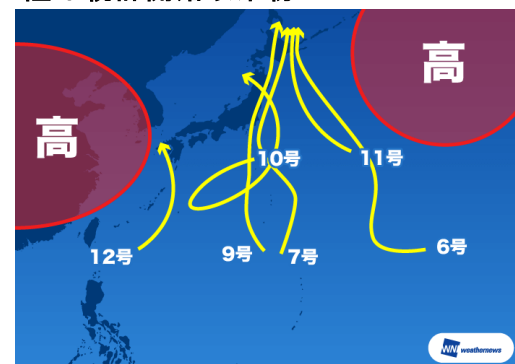
このように上陸数が多くなった背景には、台風が異例のコースを通ったことが挙げられます。

◆異例のコース：相次いで北海道に上陸、東北太平洋側への上陸は統計開始以来初

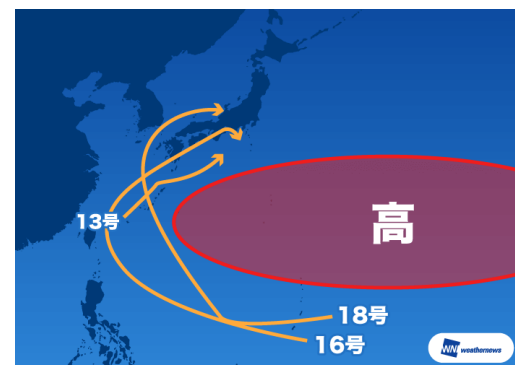
8月から9月にかけて相次いで日本に接近・上陸した台風は、例年のこの時期のコースとは異なり、南から北へ向かうものが多くなりました。

この原因は太平洋高気圧の位置が例年と異なることにあります。例年、日本の南海上で勢力を強める高気圧が、8月は日本の東の海上で強まりました。このため、高気圧の縁に沿って移動する台風は、相次いで日本列島を北上して、北海道や東北に大雨災害をもたらしました。北日本への上陸は、統計開始の 1951 年から 2015 年までの 64 年間で 7 個でしたが、今年では 1 年で 3 個も上陸しました。中でも東北太平洋側への上陸は、統計開始以来初めてのことでした。

その後、9月になると、太平洋高気圧は南側へ位置を変えて、やっと本来の位置である日本の南海上で強まりはじめました。これにより台風の通るコースも変化して、台風 13号・16号・18号は、それまでの台風のコースと異なり、本州付近を東進しました。



8月～9月最初の気圧配置と台風の進路



9月の気圧配置と台風の進路

過去、10月下旬以降に日本に上陸した台風はわずか 2 個です。台風が発生するフィリピンの東の海上もようやく静かになり、今年の台風シーズンはほぼ終了といって良さそうです。

◆参考情報：2016 年台風調査結果（都道府県別ランキング）

今年の台風は どうでしたか？			今年、台風により 生活に何らかの影響を 受けましたか？			今年、台風接近時に 台風対策はしましたか？			事前の台風情報は 足りていましたか？			上陸が多発した今年、 台風への防災意識は 変わりましたか？		
“変”と感じる割合			“はい”の割合			“した”割合			“足りなかった”割合			“変わった”割合		
順位	都道府県	割合	順位	都道府県	割合	順位	都道府県	割合	順位	都道府県	割合	順位	都道府県	割合
1位	岩手県	98.2%	1位	高知県	52.0%	1位	鹿児島県	92.2%	1位	北海道	52.4%	1位	北海道	79.2%
2位	北海道	97.4%	2位	宮崎県	51.5%	2位	宮崎県	90.6%	2位	長野県	51.9%	2位	岩手県	72.8%
3位	山梨県	97.2%	3位	北海道	47.0%	3位	沖縄県	88.2%	3位	京都府	48.7%	3位	宮城県	70.4%
4位	沖縄県	97.1%	4位	鹿児島県	44.7%	4位	熊本県	88.1%	4位	鳥取県	47.5%	4位	山梨県	66.7%
5位	徳島県	96.6%	5位	千葉県	43.4%	5位	佐賀県	87.0%	5位	大阪府	46.5%	5位	福島県	64.7%
6位	宮城県	96.5%	6位	宮城県	41.6%	6位	長崎県	86.5%	6位	群馬県	44.6%	6位	秋田県	64.3%
7位	鹿児島県	96.2%	7位	沖縄県	38.8%	7位	高知県	82.2%	7位	岡山県	44.4%	7位	富山県	63.1%
8位	三重県	96.1%	8位	長崎県	38.6%	8位	福岡県	81.7%	8位	福井県	42.9%	8位	茨城県	62.4%
9位	茨城県	96.0%	9位	茨城県	38.4%	9位	山口県	78.3%	8位	山形県	42.9%	9位	山形県	61.6%
10位	埼玉県	95.9%	10位	島根県	38.0%	10位	茨城県	76.9%	10位	山梨県	42.6%	10位	埼玉県	61.0%
11位	千葉県	95.9%	11位	岩手県	36.0%	11位	和歌山県	76.7%	11位	新潟県	41.8%	11位	青森県	60.7%
12位	福島県	95.8%	12位	東京都	35.8%	12位	三重県	75.9%	12位	愛知県	41.3%	12位	宮崎県	60.0%
13位	和歌山県	95.6%	13位	埼玉県	35.3%	13位	岩手県	75.2%	13位	富山県	39.6%	13位	栃木県	58.5%
14位	栃木県	95.3%	14位	徳島県	35.2%	14位	秋田県	75.0%	14位	栃木県	39.6%	14位	群馬県	58.5%
15位	東京都	95.3%	15位	神奈川県	34.7%	15位	広島県	74.0%	15位	香川県	38.7%	15位	福井県	57.1%
16位	静岡県	95.2%	16位	佐賀県	33.3%	16位	青森県	73.8%	16位	兵庫県	38.5%	16位	千葉県	57.0%
17位	神奈川県	95.2%	17位	大分県	32.8%	17位	徳島県	73.8%	17位	石川県	38.0%	17位	熊本県	56.8%
18位	佐賀県	94.9%	18位	和歌山県	30.9%	18位	千葉県	73.0%	18位	島根県	38.0%	18位	東京都	54.9%
19位	青森県	94.4%	19位	青森県	30.3%	19位	岐阜県	72.6%	19位	東京都	37.9%	19位	新潟県	54.2%
20位	香川県	94.2%	20位	栃木県	29.8%	20位	愛媛県	70.4%	20位	奈良県	36.8%	20位	長野県	53.8%
21位	高知県	94.1%	21位	福島県	29.8%	21位	静岡県	70.3%	21位	滋賀県	36.5%	21位	神奈川県	53.5%
22位	福岡県	94.0%	22位	福岡県	29.5%	22位	宮城県	70.2%	22位	岐阜県	36.5%	22位	鹿児島県	52.3%
23位	滋賀県	93.9%	23位	三重県	27.3%	23位	大分県	70.2%	23位	静岡県	36.1%	23位	香川県	51.1%
24位	宮崎県	93.8%	24位	奈良県	26.9%	24位	福島県	69.8%	24位	愛媛県	34.2%	24位	石川県	51.1%
25位	奈良県	93.8%	25位	大阪府	25.3%	25位	神奈川県	69.1%	25位	埼玉県	33.9%	25位	福岡県	50.9%
26位	群馬県	93.8%	26位	富山県	25.2%	26位	滋賀県	68.7%	26位	広島県	33.5%	26位	長崎県	50.4%
27位	愛知県	93.5%	27位	兵庫県	24.5%	27位	奈良県	68.5%	27位	大分県	32.8%	27位	徳島県	47.7%
28位	岐阜県	93.5%	28位	岐阜県	24.3%	28位	富山県	67.7%	28位	秋田県	32.7%	28位	佐賀県	47.4%
29位	岡山県	93.2%	29位	群馬県	24.2%	29位	埼玉県	67.5%	29位	神奈川県	32.6%	29位	岐阜県	47.1%
30位	兵庫県	93.1%	30位	山形県	24.1%	30位	新潟県	67.5%	30位	福島県	31.2%	30位	大阪府	47.0%
31位	京都府	92.9%	31位	長野県	23.8%	31位	石川県	66.3%	31位	宮城県	31.1%	31位	島根県	46.5%
32位	富山県	92.8%	32位	愛知県	23.8%	32位	岡山県	65.7%	32位	青森県	30.3%	32位	静岡県	46.4%

33位	愛媛県	92.8%	33位	京都府	23.4%	33位	兵庫県	65.5%	33位	徳島県	29.5%	33位	三重県	46.4%
34位	大分県	92.7%	34位	愛媛県	23.0%	34位	愛知県	65.0%	33位	三重県	29.5%	34位	滋賀県	46.2%
35位	長野県	92.7%	35位	鳥取県	22.5%	35位	福井県	64.9%	35位	千葉県	27.9%	35位	兵庫県	45.5%
36位	熊本県	92.1%	36位	熊本県	21.6%	36位	山梨県	64.6%	36位	山口県	27.6%	36位	広島県	45.4%
37位	大阪府	92.0%	37位	静岡県	20.0%	37位	東京都	64.4%	37位	和歌山県	27.2%	37位	京都府	44.9%
38位	長崎県	91.3%	38位	広島県	19.1%	38位	香川県	64.1%	38位	岩手県	25.4%	38位	高知県	44.1%
39位	新潟県	90.2%	39位	山梨県	17.6%	39位	島根県	62.9%	39位	茨城県	24.2%	39位	愛媛県	44.1%
40位	広島県	90.2%	40位	香川県	17.5%	40位	栃木県	62.4%	40位	福岡県	20.2%	40位	岡山県	43.6%
41位	秋田県	89.8%	41位	石川県	17.4%	41位	山形県	62.1%	41位	高知県	18.6%	41位	愛知県	43.1%
42位	山形県	89.3%	42位	滋賀県	16.8%	42位	大阪府	59.2%	42位	熊本県	14.2%	42位	大分県	43.1%
43位	福井県	89.3%	43位	岡山県	16.2%	43位	群馬県	59.0%	43位	長崎県	14.2%	43位	鳥取県	42.5%
44位	石川県	88.0%	44位	秋田県	14.3%	44位	京都府	57.9%	44位	佐賀県	14.1%	44位	奈良県	40.9%
45位	島根県	85.9%	45位	新潟県	14.2%	45位	鳥取県	56.8%	45位	沖縄県	13.7%	45位	和歌山県	39.7%
46位	鳥取県	85.0%	46位	山口県	14.1%	46位	長野県	55.3%	46位	宮崎県	10.8%	46位	山口県	37.6%
47位	山口県	81.2%	47位	福井県	8.3%	47位	北海道	49.8%	47位	鹿児島県	9.8%	47位	沖縄県	23.0%
全国平均		94.2%	全国平均		30.9%	全国平均		68.2%	全国平均		35.5%	全国平均		52.9%

※小数第2位以下を加味して順位付けを行っています。